

情報通信審議会 情報通信技術分科会

IPネットワーク設備委員会 技術検討作業班（第15回）議事録抄（案）

1 日 時

平成19年11月22日（木）10時00分～12時10分

2 場 所

総務省9階 901会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 構成員

相田仁（主任）、粟野友文、伊田吉宏、伊藤秀俊、入部真一、江崎浩、榎本洋一、笠井康伸、加藤義文、木原賢一、木村孝、高橋英一郎、谷直樹、千村保文、中野尚、名部正彦、成宮憲一、松本隆、松本檀、三膳孝通、森川誠一（以上21名）

(2) オブザーバー

新井正伸、加藤正文、川上弥、小林中、平松淳、柳邦宏

(3) 事務局（総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課）

竹内電気通信技術システム課長、菱沼同課企画官、大西同課課長補佐 他

4 議 事

(1) 前回議事録抄（案）の確認について

資料作15-1に基づき、技術検討作業班（第14回）の議事録抄（案）について、意見等がある場合には事務局へ連絡をしていただくよう説明があった。

(2) IPネットワーク設備の技術的条件等に関する検討状況について

資料作15-2に基づき次世代IPネットワーク推進フォーラム（以下、「フォーラム」という。）IP電話SWG主査 千村様より、資料作15-3に基づきコンテンツ配信SWG主査 小林様より、資料作15-4に基づき固定・移動シームレスSWG主査 加藤様より、資料作15-5に基づき端末・網SWG主査 入部様より、それぞれのSWGでの検討状況等について説明があった。

(3) 0AB~J IP電話端末の試験方法について

資料作15-6に基づき、0AB~J IP電話端末の試験方法について事務局より説明があった。

【意見交換の概要】

<IP ネットワーク設備の技術的条件等に関する検討状況について>

栗野：次世代 IP ネットワーク推進フォーラム技術基準検討 WG では、来月、年内のまとめをする予定である。

加藤（義）：設備を持たない電気通信事業者の立場から見ても、論点がわかりやすく整理されている。コンテンツ配信 SWG の基本検討モデルの検討項目については、ISP の立場でも重要なものであり、今後の課題と思われるが、このモデルを活用できるような取組をしていきたい。

榎本：IP 電話 SWG の「アクセス手段・サービス事業者の選択」という課題の検討では、マイライン等についても検討した結果、技術的には特段の課題なしとなったものか。

千村：当 SWG においては、技術的条件等の課題に関する検討を行ったものであり、各サービスの検討はしていない。ネットワークの IP 化により、現状の技術的条件等の枠組みではできなくなることがあるといった課題の提言はなかった。次世代網になると、従来と異なる業務連携はあると思われるが、技術条件を要する課題の有無は一般論では言えず、現時点で顕在化もしていない。

江崎：技術基準的には満足しているように見えても、現実には、つながらないという問題があることは重要であり、課題として明記するべきではないか。このような実状は、試験方法にも関係すると思われる。また、発信規制については、050-IP 電話においても必要かという検討も必要であるが、固定系電話以外が含まれることを考えると、技術基準的には、ネットワーク側に DoS 攻撃に対するプロテクションのスペックといったロバスタ的なものがあつた方がいいのではないか。

相田：事業者横並びのものを設ける必要があるかという議論は必要になるだろう。

事務局：PSTN ではトラフィック条件、事業者の利用するネットワーク、端末も明確だった。NGN だと、規律をどうするのか。サービスごとに見たときに必要なもの。決めるのは標準化か競争か。決めるとした場合の整理が必要。

千村：今後の端末の多様性は重要な論点である。まず、電話としてみたときの多様性としてどのような課題があるか、必要な対策はなにか整理していくため、継続して実態の把握に努める。

栗野：0AB~J-IP 電話の検討においては、電話の歴史があつたため、条件も明確なものが多かった。一方 050-IP 電話では技術の進歩や、アクセス回線の多様化のため、端末の範囲が広い。

相田：0AB~J-IP 電話から 1 年遅れで技術基準等として策定すべきものがあるかということでご検討いただいている。本年度内で技術基準化できそうなものは 050-IP 電話に関する検討結果の一部と考えてよいか。

江崎：050-IP 電話の技術の確立する方向が決まっていない段階で 0AB~J-IP 電話と同じような基準で枠をはめてしまうことは、可能性を狭めてしまうという危険性もあるため心配である。

千村：今回の 050-IP 電話に関する検討では、まず、0AB~J-IP 電話と同一内容を当てはめることができるものはないか検討した。当てはまらないものについては、実態を把握しながら、技術の進歩を阻害しないような形で方向を提言していきたい。

相田：NGN がおぼろげながらも見えてきたこともあり、様々な検討の場が設けられている。次世代 IP ネットワーク推進フォーラムでも IP 端末部会が設立され、責任分担の在り方等が検討されている。安全・信頼性検討作業班や重要通信の研究会もあり、連携することによって、効率的に検討するべきである。

江崎：コンテンツ配信 SWG の基本検討モデルのアーキテクチャは有線のように見えるが、無線も考慮する必要がある。固定・移動シームレス SWG について、ハンドオーバーに関しては、3GPP フォーラムの資料を参照するとモデルの整理がしやすいと思われる。

事務局：端末・網 SWG の資料において、電気通信回線設備を保有しない事業者に対しては、端末に関する規制について「実質的に規制をかけていない」と記述されているが、制度としては、自ら技術的条件の認可を受けて設定することができ、実質的には技術的条件も技術基準と効力は変わらない。また、050-IP 電話の検討について、0AB~J-IP 電話の検討の際の項目であった、発信者番号偽装表示についてはどのようなになっているか。

千村：発信者番号偽装対策については、検討すべき課題として認識している。検討中のため、本日の資料には含まれていないが、0AB~J-IP 電話には対策が必要で、050-IP 電話では必要ないとは考えていない。

事務局：なりすましの防止については、可能な限り、番号に関係なく適用するべきではないかと、情報通信審議会電気通信事業部会においてもご意見をいただいている。優先的に検討をお願いしたい。

<0AB~J IP 電話端末の試験方法について>

江崎：プロトコルの検証については、記載されている内容よりも相当に難しいのではないかと。IPv6 フォーラムにおいては検討が進められており、コンFORMANCE テスト等の仕様がオープンソースも含めて用意されている。

事務局：試験しようとしている内容は、答申された機能要件を具備しているかどうかの確認といった、技術基準等に対する参照モデルであり、SIP のコンFORMANCE とは別である。

(4) その他

今後のスケジュールについて、本日の審議を踏まえて、次回作業班及び IP ネットワーク設備委員会への報告を 12 月中下旬に行う予定であり、開催時期については、その後、別途調整する予定である旨、事務局より説明があった。

【資料番号】	【配付資料】
資料作15-1	IPネットワーク設備委員会 技術検討作業班(第14回)議事録抄(案)
資料作15-2	次世代IPネットワーク推進フォーラム IP電話SWGの検討状況
資料作15-3	次世代IPネットワーク推進フォーラム コンテンツ配信SWGの検討状況
資料作15-4	次世代IPネットワーク推進フォーラム 固定・移動シームレスSWGの検討状況
資料作15-5	次世代IPネットワーク推進フォーラム 端末・網SWGの検討状況
資料作15-6	OAB-J IP電話端末の試験方法について